

JICA 海外協力隊の新制度「科学技術協力隊」を開始します！

JICA 海外協力隊は、2025 年に 60 周年という大きな節目を迎えました。これを機に、日本の若手研究者を JICA 海外協力隊として開発途上国の研究機関へ派遣し、現地研究者との共同研究や技術協力を行う新制度「JICA 海外協力隊（科学技術協力隊）」を創設しました。本制度は、研究者間の国際的な協働を促進し新たな取り組みであり、知見や人材が国境を越えて循環する「国際頭脳循環」の実現を後押しするものです。また、日本の研究機関の国際化や日本人若手研究者の研究能力向上にも寄与することを目的としています。

2026 年 3 月 12 日、本制度下での若手研究者派遣を目指し、京都大学との間で全国で初めて覚書が締結されました。

今後、京都大学防災研究所はメキシコ国立防災センターに、京都大学大学院総合生存学館はタイのチュラーロンコーン大学に、それぞれ若手研究者を JICA 海外協力隊員として派遣する予定です。現地では、メキシコの地震災害リスク軽減分野やタイの農業環境分野において、現地研究者とともに研究・助言を行います。派遣を通じて、開発途上国の課題解決および ODA における科学技術協力をリードする人材育成への貢献が期待されます。



初の科学技術協力隊に関する覚書の署名

左から村上京都大学大学院総合生存学館長、広沢 JICA 関西所長、
堀京都大学防災研究所長